

近現代戦の表象比較研究

「戦争のメモリー・スケープ」

期日：7月15(日)－16日(月)

場所：北海道大学文系共同講義棟 W 棟 101 号室

7月15日(日曜日)

9:50-10:00 開会の辞

10:00－12:00 セッション：切り取られる自他像 司会：菊谷竜太(東北大)

中野徹(近畿大) “英雄”の変相 — 連環画『鉄道遊撃隊』をめぐって

高本康子(北大) 日本人と「大陸」世界 — 満鉄映画に見る「喇嘛教」表象

コメンテーター：土田環(映画専門大学院大学)

13:00－15:00 セッション2：“祖国のために死ぬこと”を視る 司会：後藤正憲(北大)

向後恵里子(早大) 肉弾 — 日露戦争における戦死の表象

越野剛(北大) ナポレオンのロシア遠征と戦う農民のイメージ

コメンテーター：杉本淑彦(京大)

15:15－17:15 セッション3：闘う女性像、闘わない女性像 司会：地田徹朗(北大)

田村容子(福井大)

たたかう女性像の系譜 — 近現代の中国演劇における戦闘少女と寡婦

前田しほ(北大)

ソ連の戦争表象における視覚的女性像 — 共同体を統合する“母”の慈愛

コメンテーター：濱田麻矢(神戸大)

18:00－ 懇親会

7月16日(月曜日)

10:00－12:00 セッション4：史跡・戦跡とパブリック・メモリー 司会：高本康子(北大)

高山陽子(亜細亜大) 中国における監獄の観光化

平山陽洋(北大) & 今井昭夫(東京外大)

ベトナムにおける顕彰記念の空間的形象：戦没者墓地、戦跡、博物館、記念碑

コメンテーター：平松潤奈(金沢大)

※1セッションの構成

2報告(30分)＋コメント(15分程度)＋ディスカッション45分程度

13:00-15:00 ラウンドテーブル

司会：越野剛

- ① 研究会総括
- ② 書評会

研究会の討論を踏まえて、ゆるやかな書評会を行うという企画。

今回の課題図書は『アメリカという記憶：ベトナム戦争、エイズ、記念碑的表象』（マリタ・スターケン著、未来社、2004年、3990円）の第2章・第3章（85-206頁）。翻訳者の一人平山陽洋さんが解説を兼ねて、簡単なレビューを行うが、参加者は課題図書を事前に読み、議論に参加することが望ましい

主催：新学術研究「ユーラシア地域大国の比較研究」第6班、挑戦的萌芽研究「ロシア語文化圏の東西周縁の文学における戦争の語りの比較研究」、若手研究（B）「第一次インドシナ戦争期の北ベトナムでの総動員体制の構築と冷戦の影響をめぐる研究」、若手研究（B）「20世紀後半ロシア文化における戦争の記憶表象についてのジェンダー研究」、基盤研究（C）「近代日本の画像メディアにおける『喇嘛教』表象の研究」

共催：グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」

お問い合わせは下記へ：

〒060-0808 札幌市北区北9条西7丁目 北海道大学スラブ研究センター

TEL：011-706-2384（プロジェクトスペース）

越野剛（TEL：011-706- gkoshino@slav.hokudai.ac.jp）

平山陽洋（TEL：011-706-2384 ahirayama@slav.hokudai.ac.jp）

前田しほ（TEL：011-706-2384 maedacixo@slav.hokudai.ac.jp うん）